

令和6年度 ふるさと・きずな維持・再生支援事業事務業務

NPO、企業等との連携・協力事業
(マッチング事業)

報告書



福島県

ふくしま地域活動団体サポートセンター

事業委託：福島県企画調整部文化スポーツ局文化振興課

事業受託：認定特定非営利活動法人ふくしまNPOネットワークセンター

目 次

1. 事業の目的	3
2. 事業スケジュール	4
3. 事業の内容	5
(1) NPOと企業等へのマッチングに向けた情報提供、ヒヤリング	5
(2) NPOと企業等の協働に関するアンケート調査(対象：NPO 法人)	8
(3) マッチング伴走支援（協働案の取りまとめ等）	15
(4) NPOと企業等との協働推進シンポジウムの開催	27
(5) マッチング事業の広報・募集・申込受付・成果普及（随時）	43
4. マッチング事業の成果	47

1. 事業の目的

少子高齢化の進行に伴う人口減少や自然災害の頻発・激甚化など、地域における社会課題が複雑になり、多様化、複合化している中で、それらを解決し、持続可能な社会を実現するためには、行政のみならず、企業、地縁組織、NPO等の多様な主体によるアプローチが重要になっています。一方でどの主体においても担い手不足している状態となっており、相互で連携・協力する「協働」の取組みや多様な主体をつなぎあわせる「マッチング」の取組みが重要となっています。

NPOは専門性・柔軟性・先駆性等の特性を有しており、企業等と協働することにより、地域の課題解決や住民主体の地域づくりがより効果的に実施されることが期待されます。

このNPOと企業等の「協働」による社会課題解決を推進するため、福島県のNPO支援センターである「ふくしま地域活動団体サポートセンター」が県内のNPOと企業の社会課題の解決に向けた活動に関するデータを収集し、それらをもとにマッチングさせ、協働事業として実現させることを目的とします。

<NPOと企業等のマッチング事業について>

今年度のNPO、企業等との連携・協力事業では、まず、NPOと企業等へマッチングに向けた情報提供やヒヤリングを実施し、協働ニーズについては、NPO等に対してマッチング要望シートの提出やアンケート調査等を実施し、伴走支援（協働案の取りまとめ等）を実施しました。

また、協働には興味はあるものの、「NPOと企業等がどのように連携・協力できるのか」や「NPOと企業等が連携・協力することでどのような成果を生みだすことができるのか」などの問いや協働推進の観点から、「企業とNPOの協働推進シンポジウム in ふくしま」を実施しました。シンポジウムでは、既にNPOと企業等との連携・協力しているNPOおよび企業の方から成功事例や企業に所属している従業員によるボランティアマッチングなど新たな協働の取組み方を紹介しました。会場、オンラインでの同時配信を実施し、福島県内における企業とNPOとの協働推進に向けた方向性を広く一般に周知させました。

2. 事業スケジュール

- (1) NPOと企業等へマッチングに向けた情報提供、ヒヤリング

ヒヤリング期間：令和6年4月1日（月）～令和7年3月31日（月）

- (2) NPOと企業等の協働に関するアンケート調査

調査期間：9月13日（金）～27日（金）

調査範囲：福島県内に所在する主なNPO等

- (3) マッチング伴走支援（協働案の取りまとめ等）

期間：令和6年4月1日（月）～令和7年3月31日（月）

対象：福島県内に所在する主なNPO、企業等

- (4) 企業とNPOの協働推進シンポジウム in ふくしまの開催

開催日時：令和7年2月27日(木) 13:30～16:30

会場：杉妻会館 4階牡丹

- (5) マッチング事業の広報・募集・申込受付・成果普及（随時）

3. 事業の内容

(1) NPOと企業等へマッチングに向けた情報提供、ヒヤリング

(ア) NPOへの情報提供、ヒヤリング実績

※ヒヤリング等実績：20 件

(イ) 企業への情報提供、ヒヤリング実績

※ヒヤリング等実績：26 件

(ウ) NPOと企業等との協働セミナー等への参加実績

9 月 12 日	公益社団法人日本フィランソロピー協会主催 「NPO向けボランティアウェブ説明会」
10 月 4 日	神奈川県における水福連携の取組事例 (かながわ水産業福祉連携推進事業)
12 月 10 日	サステナビリティ・リンクアップフォーラム ・オープンフォーラム
12 月 23 日	赤い羽根 社会貢献セミナー2024

(エ) 社会貢献活動に関するアンケート調査 (対象：企業等)

※企業への情報提供、ヒヤリングでの訪問時にアンケート調査への協力
依頼を実施した。

- 調査数：10 社
- 回答数：4 社 (回答率：40%)

(2) NPOと企業等の協働に関するアンケート調査(対象：NPO 法人)

(ア) 調査目的

NPOと企業等の多様な主体が、互いの立場を尊重し、それぞれの強みや特性を活かして協働することにより、人口減少社会の地域コミュニティの再生や多様化する地域課題の解決に取り組むことが重要とされている中、福島県において、さらにNPOと企業等が協働を進めていくために、NPOと企業等との協働に関する意識やニーズを明らかにすることにより、今後の事業運営の基礎資料とすることを目的とした。

(イ) 調査方法

福島県内に所在する主なNPO法人に対してメールアンケート方式

※回答については、Google フォーム・FAX・メールで回答集計

(ウ) 調査実施期間

メール送信 令和6年9月13日

回答期限 令和6年9月27日

(エ) 回収状況

調査対象 459 団体

有効回答数 27 団体（回収率 約 5.9%）

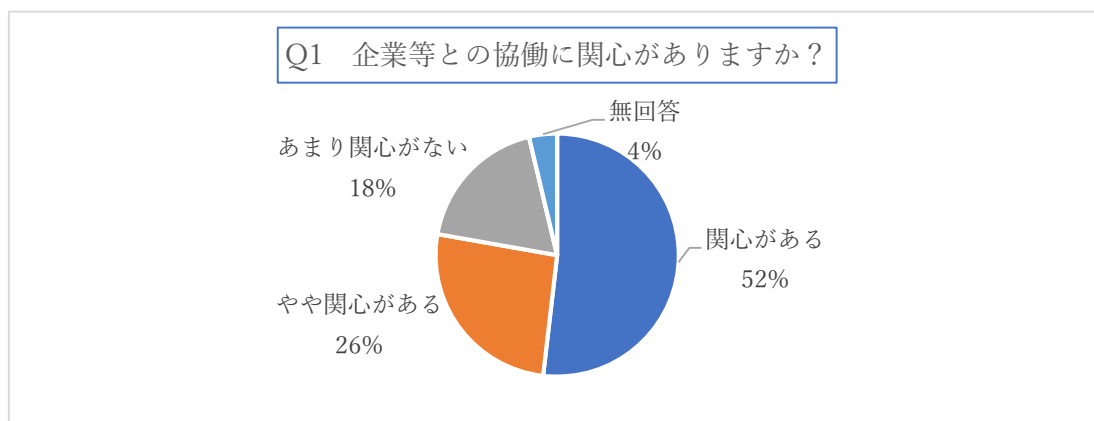
(オ) その他

アンケート回答の参考のため、既に実施されている福島県内でのNPOと企業等との協働事業の成功事例を紹介した。

(カ) 集計結果

Q1 企業等との協働に関心がありますか？（○を1つつけてください）

- | | |
|-------------|-----------|
| 1) 関心がある | 14 件(52%) |
| 2) やや関心がある | 7 件(26%) |
| 3) あまり関心がない | 5 件(18%) |
| 4) 関心がない | 0 件(0%) |
| 5) ※無回答 | 1 件(4%) |

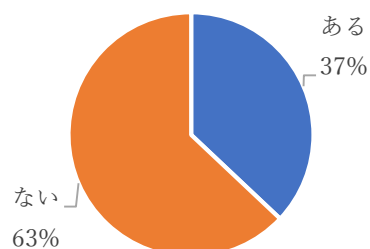


Q2 令和3年度から現在までに、企業等と協働した取組はありますか？

（○を1つつけてください）

- | | | |
|-------|---------------|-----------|
| 1) ある | （→Q3へお進みください） | 10 件(37%) |
| 2) ない | （→Q4へお進みください） | 17 件(63%) |

Q2 令和3年度から現在までに、企業等と協働した取組はありますか？



Q3 Q2で「ある」と回答された方に質問します。

1) 企業名をご記載ください。

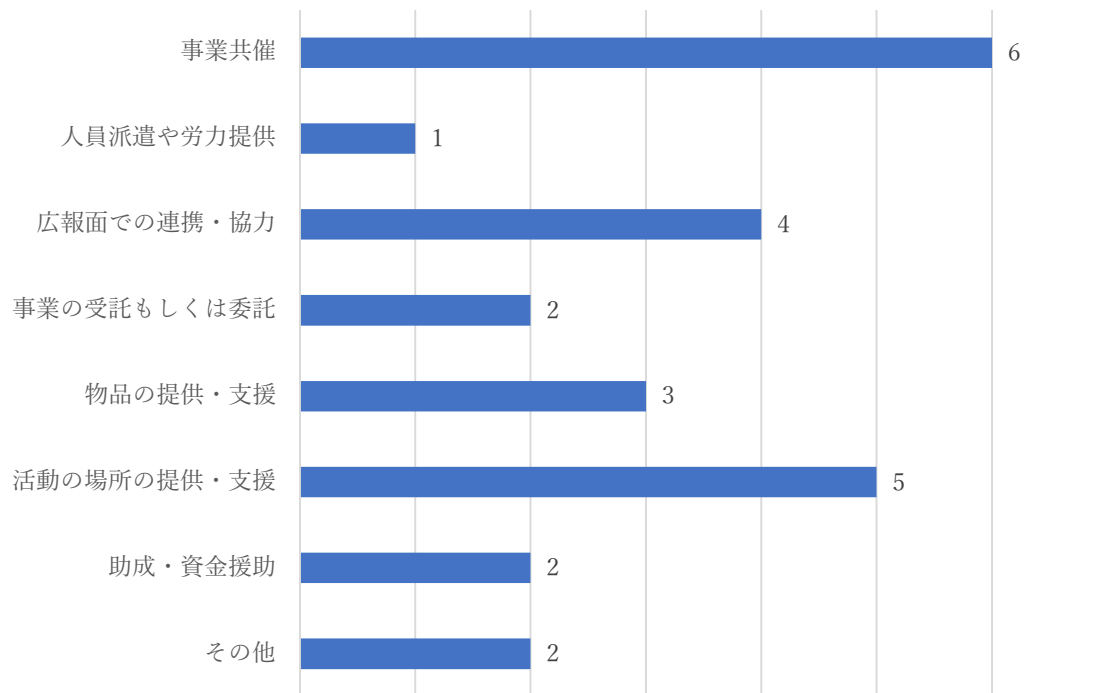
※回答実績：17社

(電力・ガス会社、金融機関、小売業、基金・財団等)

2) どのような取組でしょうか。下記の該当する項目に○をつけてください。(複数回答可)

1. 事業共催・・・・・・・・・・・・・・・・・・6件
2. 人員派遣や労力提供・・・・・・・・・・1件
(ボランティア・講師・専門家等の派遣)
3. 広報面での連携・協力・・・・・・・・・・4件
4. 事業の受託もしくは委託・・・・・・・・・・2件
5. 物品の提供・支援・・・・・・・・・・3件
6. 活動の場所の提供・支援・・・・・・・・・・5件
7. 助成・資金援助・・・・・・・・・・2件
8. その他・・・・・・・・・・2件

2) どのような取組でしょうか。（複数回答可）

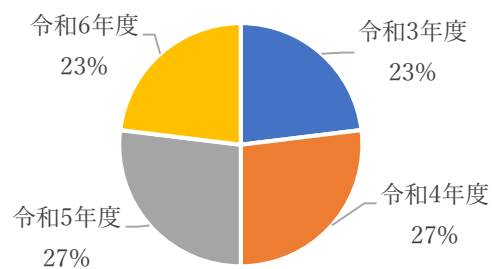


3) その取組はいつ実施しましたか。

実施した年度全てに○をつけてください。

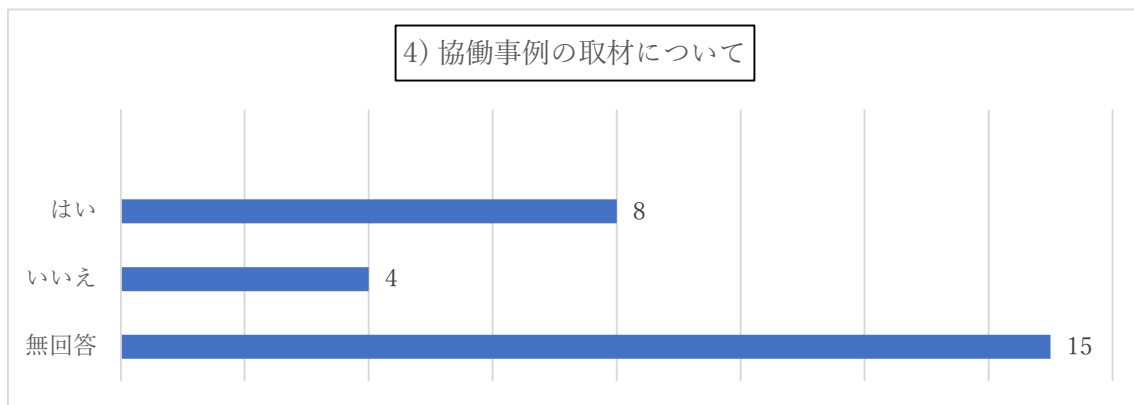
1. 令和3年度・・・・・・・・・・6件(23%)
2. 令和4年度・・・・・・・・・・7件(27%)
3. 令和5年度・・・・・・・・・・7件(27%)
4. 令和6年度・・・・・・・・・・6件(23%)

3)取組の実施年度について



4) 当センターでは、協働推進のため、今後、協働事例集を作成する予定です。取り組み内容の取材にご協力をいただけますか？（○を1つつけてください）

1. はい・・・・・・・・・・8件
2. いいえ・・・・・・・・・・4件
3. 無回答・・・・・・・・・・15件



Q4 今後、企業等と協働で取り組みたいと考えていることはありますか？

（○を1つつけてください）

- 1) ある・・・・・・・・・・7件(26%)

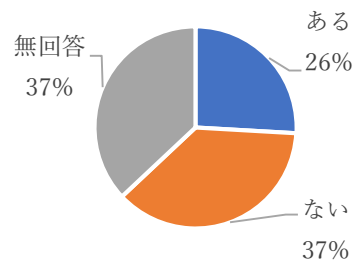
※具体的にその内容をご記入ください。

- 当法人事業所の革製品の販売協力できる企業
- 子ども食堂の運営、福祉体験・ボランティア活動の受け入れ等、共生型カフェ、買い物支援

- 2) ない・・・・・・・・・・10件(37%)

- 3) 無回答・・・・・・・・・・10件(37%)

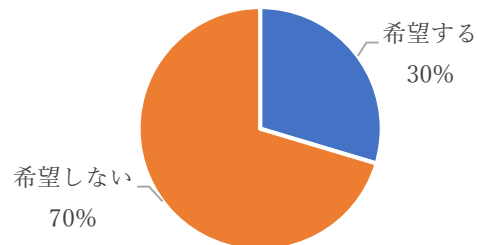
Q4 今後、企業等と協働で取り組みたいと
考えていることはありますか？



Q5 企業等との協働事業に取り組む際、当センターでの企業等とのコーディネート希望しますか？（○を1つつけてください）

- 1) 希望する 8 件(30%)
- 2) 希望しない 19 件(70%)

Q5 企業等とのコーディネートの希望について



Q6 その他、企業等とのマッチング事業に関して、要望・ご意見があれば、ご回答ください。

- 現在のところ企業等と取り組む事業は計画しておりませんが、今後ともよろしく願いいたします。
- 企業等との協働事業に大変興味はありますが、日々の活動が忙しすぎて追いつかず断念しているところもあります。うまくやっている団体様はどのようにしているのか興味があります。
- 粳穀シリカの供給・需要、両サイドからのアプローチがあれば具体的に進めたいです。
- 企業側のニーズが分かり、当団体がそれに合致するのであればと思いますが、なかなか難しいです。
- より多くの地元企業に参加してもらいたいです。
- 現状、企業さんとのつながりがないので、この機会をきっかけに何か繋がれることができれば嬉しいです。
- 働きたい障がい者の雇用の方や企業とのマッチングで、さらに企業側の人材不足にも解消につながるような双方がウインウインの関係でマッチングする体系がいいと思っています。
- 企業等と協働での取り組みを検討しておりますが、現在は地区保健福祉センターとの協働の取組をしています。今後、サポセンのコーディネート、ご助言が必要な場合は相談します。
- 授産品のみそを使った商品のコラボがしたいと考えていましたが、既に高校と企業とのコラボがあり、私達には時間と労力、知識において難しいと感じました。

(3)マッチング伴走支援（協働案の取りまとめ等）

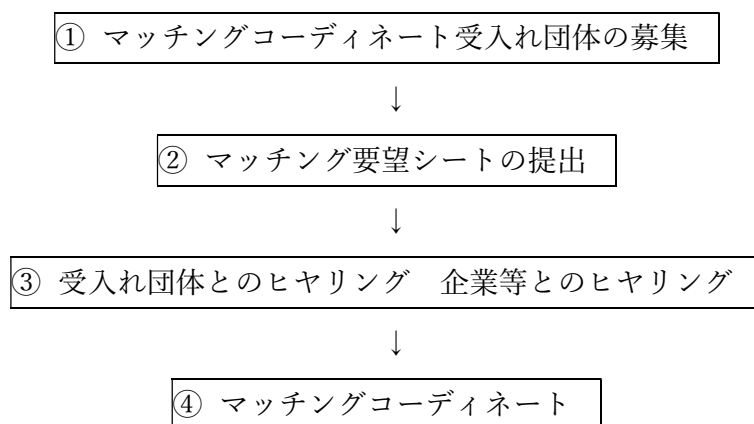
県内に所在するNPOに対して、地域の社会的な課題を解決する方法のひとつとして、企業等との連携・協力を提案し、企業等とのマッチングのコーディネートや、協働実現に向けた伴走支援（協働案のとりまとめ等）の受け入れ団体の募集を実施しました。

■ 実施詳細

期間：令和6年4月1日(月)～令和7年3月31日(月)

対象：福島県内に所在する主なNPO等

■ 企業等とのマッチングまでのフローチャート



マッチング要望シート

マッチング要望シート	
記入日：令和 年 月 日	
1. 団体情報	
団体名 (法人様を★ご記入ください)	
役職	
担当名称	
連絡先（電話）	
連絡先（メール）	
2. 団体概要 （主な活動内容をご記入ください。※団体紹介として掲載します）	
3. 活動地域 （主な活動地域をご記入ください）	
4. 団体の強み （団体の強み、提供できるリソースをご記入ください）	
5. 達成目標 （企業等との連携・協働で実現したい内容をご記入ください）	

（表面）

6. 連携・協働したい企業、業種 （連携・協働したい企業や業種があればご記入ください）
7. 連携・協働実績 （これまでに連携・協働した経験等があれば、連携先・内容等をご記入ください）
8. その他、要望等があればご記入ください。

（裏面）

■ マッチング要望シートの提出があった団体

実績：3 団体

※「NPOと企業等の協働に関するアンケート調査」で協働の希望があった団体が8団体あったが、マッチング要望シートの提出があった団体は上記の団体のみ

■ ふくしま地域活動団体サポートセンターがコーディネートしたマッチング事例

① おたがいさまチケット事業提携（継続事例）

NPO等	特定非営利活動法人チームふくしま（福島市）
企業等	株式会社モスフードサービス 福島県内の加盟店（東京都、福島県） ※令和6年8月1日開所式を開催
内容	特定非営利活動法人チームふくしまと株式会社いちいがフランチャイズ加盟しているモスフードサービスとの連携拡大へのコーディネート



② 企業が実施した SDGs イベントでの協力、食料品の寄贈（新規事例）

NPO等	特定非営利活動法人チームふくしま（福島市）
企業等	三本珈琲株式会社（神奈川県） ダイユーエイト Max ふくしま（福島市） ※令和6年8月8日実施
内容	三本珈琲株式会社とダイユーエイト Max ふくしまとが連携して実施しているフードロス対策の受け入れ団体の紹介等のコーディネート



③ NPO団体が実施したイベントへの協力（R5 マッチング会での事例）

- NPO等 特定非営利活動法人ココネット・ママ（郡山市）
- 企業等 キヤノンマーケティングジャパン株式会社（東京都）
- ※みんなの笑顔プロジェクト
- 1回目：8月22日実施「夏休みイベント」
- 2回目：11月17日実施「こどものまち げん KIDS イベント」
- 内容 イベントでの連携・協力に向けてのコーディネート



④ NPO団体が実施したイベントへの協力（新規事例）

- NPO等 一般社団法人カーニバルワークス（郡山市）
- 企業等 キヤノンマーケティング株式会社（東京都）
- ※みんなの笑顔プロジェクト
- 10月5日実施「CARNIVALBAZAAR」
- 内容 イベントでの連携・協力に向けてのコーディネート



⑤ NPO団体が企画運営するイベント広報への協力（新規事例）

NPO等	福島市市民活動サポートセンター（福島市）
企業等	エヌケーテック株式会社（郡山市） ※福島市主催オープンセミナー開催チラシ作成
内容	受入れ団体等の紹介、打合せ等でのコーディネート

⑥ NPO団体の見学イベント、ワークショップ用材料の提供（新規）

NPO等	特定非営利活動法人ふくしまグリーンキャンパス
企業等	有限会社服部製作所（二本松市）、株式会社たてぐ屋山岡（二本松市）
内容	NPO 団体の見学受入れ依頼、ワークショップ用材料の提供依頼

⑦ 社員のボランティア受け入れ団体の紹介（新規）

企業等	東邦銀行従業員組合
※紹介先NPO団体等	
● 特定非営利活動法人裏磐梯エコツーリズム協会 ● 特定非営利活動法人いわき鳴き砂を守る会 ● NPO花見山を守る会	

⑧ ひきこもりの若者の社会復帰に向けたチャレンジ就労機会の提供（新規事例）

NPO	特定非営利活動法人ビーンズふくしま
企業	合同会社ジーアール福島
内容	ニート、ひきこもりの若者を支援している団体から、社会復帰を目指し、簡易な就労ができる機会の打診を受け、同社が工場内での清掃作業を紹介するコーディネート。

(4) 企業とNPOの協働推進シンポジウム in ふくしま 開催

■ 実施内容

<開催日時・会場>

令和7年2月27日(木) 13:30~16:30 (開場 13:00)

杉妻会館 4階牡丹(福島県福島市杉妻町3-45)

<募集定員・対象>

100名(会場) ※オンライン同時配信(YouTube Live)

企業、NPO、学生、協働に関心のある方

<構成> 2部構成、交流会&名刺交換会

第1部 講演「企業とNPOとの連携事例から今後の可能性を探る」

講師：特定非営利活動法人日本NPOセンター 常務理事 田尻佳史氏

第2部 企業×NPOの協働事例紹介

協働事例① 企業ショールームを活用した子ども食堂活動

福島ガス株式会社×NPO法人ビーンズふくしま

※登壇者 NPO法人ビーンズふくしま 理事 江藤大裕氏

福島ガス株式会社 営業部長 山本和徳氏

協働事例② 二本松の銘酒を使った大人向けジェラート開発

有限会社丸大大阪屋商店×NPO法人はなみずき(すてっぷ)

×株式会社福島銀行

※登壇者 株式会社福島銀行 DX推進室長 伊藤講平氏

株式会社福島銀行 人材開発担当課長 竹川千夏氏

協働事例③ 社員寮を活用したお互いさま倉庫・

コミュニティフリッジひまわり

株式会社いちい×NPO法人チームふくしま

※登壇者 NPO法人チームふくしま 理事長 半田真仁氏

株式会社いちい 専務取締役 伊藤翼氏

協働事例 ④ いわきの海岸清掃と鳴き砂の定点観測活動

福島県内トヨタ販売店各社×NPO法人いわき鳴き砂を守る会

※登壇者 NPO法人いわき鳴き砂を守る会

理事長 桶田隆司氏

公益社団法人日本フィランソロピー協会の事業紹介

※登壇者 公益社団法人日本フィランソロピー協会

事務局長 青木高氏

ふるさと・きずな維持・再生事業の紹介

※登壇者 福島県文化振興課 主査 関博史氏

クロストーク

協働事例登壇者と会場、YouTube Live（チャット）での質疑応答

・アドバイザー 田尻佳史氏

・ファシリテーター 深澤秀樹氏

クロージングトーク

田尻佳史氏 × 深澤秀樹氏

交流会・名刺交換会

会場後方にNPO団体の活動内容（パネル等）を紹介するコーナーを設けた

展示団体

- 一般社団 CARNIVALWORKS
- NPO法人いわき鳴き砂を守る会
- NPO法人チームふくしま
- NPO法人中之作プロジェクト 等

■ シンポジウムの参加実績

参加者数：76 名（当日参加 11 名含む）

（会場：51 名、オンライン：25 名）

※参加者の所属分類

企業	32 名
N P O	25 名
中間支援	10 名
その他（行政・学生）	9 名

※参考「企業とN P Oの協働推進シンポジウム」を何で知ったか

1. 新聞	5 名
2. チラシ	28 名
3. 商工会議所報	1 名
4. サポセン HP	7 名
5. SNS(Facebook、X)	7 名
6. SDGs 推進 メルマガ	6 名
7. その他	21 名

■ 第1部 講演

<主な内容について>

- 企業における社会貢献活動の歴史的背景、必要性について、「大手企業」と「地方企業」との比較を紹介し、地方企業ならではの社会貢献の役割を示した。
- コピー機を製造する企業が視覚障がい者との連携を通して、障がい者に配慮した製品づくりのヒントを得たなどの事例を引用し、NPO等との連携・協力することのメリット、さらには、その連携が企業の本業にもメリットが発生する可能性を提示した。
- 企業による社会貢献活動をカテゴライズし、取組内容を体系的に説明したことにより、企業による様々な貢献の方法や手法を提示し、企業が社会貢献の取組みを検討する上でのすそ野を広げた。
- 「NPOとの連携のススメ」と題し、従来の1対1の協働から、茨城県の買い物難民への支援対策を引き合いに、複数のセクター間相互(マルチステークスホルダー)で話し合い、各セクターが少しずつ負担し、社会課題解決へ導くような、これからの協働のあり方を提示した。
- PDCAサイクルを示し、計画段階からNPO等との協働をする、話し合うことの重要であり、異なるセクター間で協働する上での最も根本となる「お互いの主体性を活かす循環」につながることを提起した。

<今後に活かせる視点として>

企業とNPOの連携・協力について、広く全体像をつかめる内容であり、これからの地域社会貢献活動の姿を示した。一方、講演内での茨城県での買い物難民への取組事例など、地域社会の多様な課題の解決のため、様々なセクターが連携・協力して解決した事例等の紹介に重きを置いた方が、より企業とNPOの連携・協力が地域の社会課題の解決に導き、多様な主体による協働の重要性を聴衆に対して伝えることが可能であったのではと思われる。

第2部 企業×NPOの協働事例紹介

＜主な内容について＞

事例1：企業ショールームを活用した子ども食堂

- 子ども食堂が、従来の子どもの食事の提供だけではなく、子育てを支援する役割を果たし、貧困対策や地域コミュニティの拠点として重要な役割を果たしていること。
- 子ども食堂を通して、地域、企業、NPO、学生とさまざまな連携をしながら、地域全体で子育てを支える仕組みとなっていること。

事例2：二本松の銘酒を使った大人向けジェラート開発

- 障がい者施設がビジネスパートナーとなることの可能性
- テストマーケティング、PRも兼ねたクラウドファンディングを活用方法の紹介

事例3：社員寮を活用したお互いさま倉庫・コミュニティフリッジひまわり

- 貧困や経済格差などの社会課題の解決に向けて、企業が関わることへのメッセージ
- 地域密着型のスーパーの視点から、地域社会への様々な社会貢献を実施することの重要性について

事例4 いわきの海岸清掃と鳴き砂の定点観測活動

- 環境保護活動に企業や学生などさまざまな人が関わることの意義
- 企業と連携して活動する上で、NPO側に求められる点。

公益社団法人日本フィランソロピー協会の事業紹介

- 企業組織として社会貢献に関わるケースではなく、企業に所属している従業員（個人）が主体的にボランティアする取り組みの紹介。
- 社外でのボランティアだけではなく、在宅ワークでもボランティア活動（支援）ができる新たな可能性を紹介。

- 従業員がボランティアすることで企業内での業務にどのような効果があるのかを紹介し、社会貢献取組の推進を図る。

クロストーク・クロージングトーク

<主な内容について>

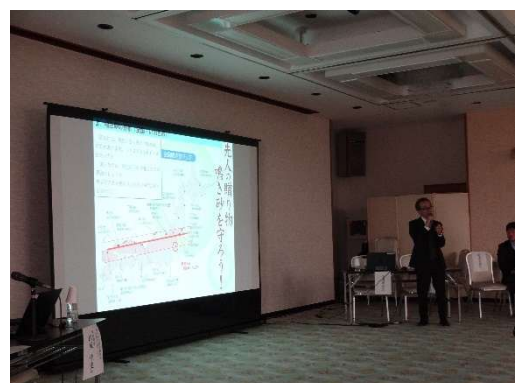
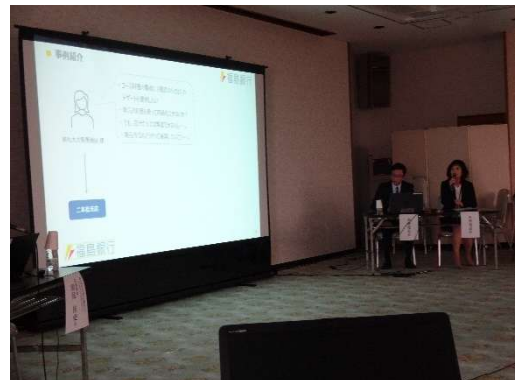
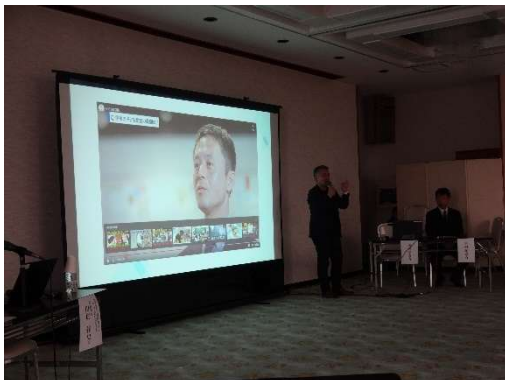
- 各事例発表者に対して、今回の連携・協力について、「苦労した点」や「課題点」を確認し、協働での気を付けるポイントや協働事業を継続させるためには、定期的に企業側にNPOの活動内容をフィードバックすることが必要であることなどを共有することができた。
- 連携・協力で企業側が求めている本音を引き出したことで、企業側が社会貢献活動の先に自社にもメリットがあることを効果的に伝えることができた。
- 多様性を支える社会づくりとして、NPO活動が重要であり、その行動様式は「共感」となることを定義し、NPO活動の理解を深めた。

交流会・名刺交換会

<主な内容について>

- シンポジウムの開始前、休憩時間等においても、登壇者、参加者の交流が盛んに行われていた。
- パネル展示にも多くの目を引き付け、NPO活動の紹介ができた点
- 事前にマッチングしたい企業や団体などをヒアリングしていたため、紹介することでつなげることができた。

シンポジウム会場の様子



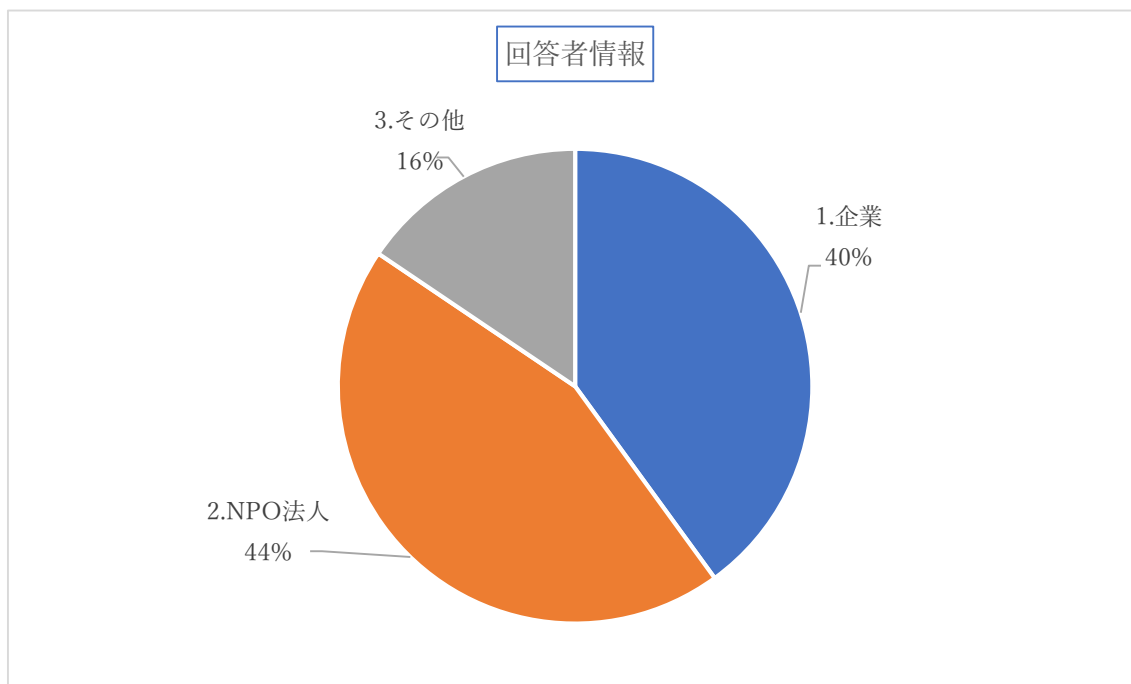


■シンポジウム参加者アンケート集計結果

アンケート総回答数	45	(59.2%)
会場アンケート回答数	31	(59.6%)
オンライン回答数	14	(58.3%)
※参加者総数 76 名		

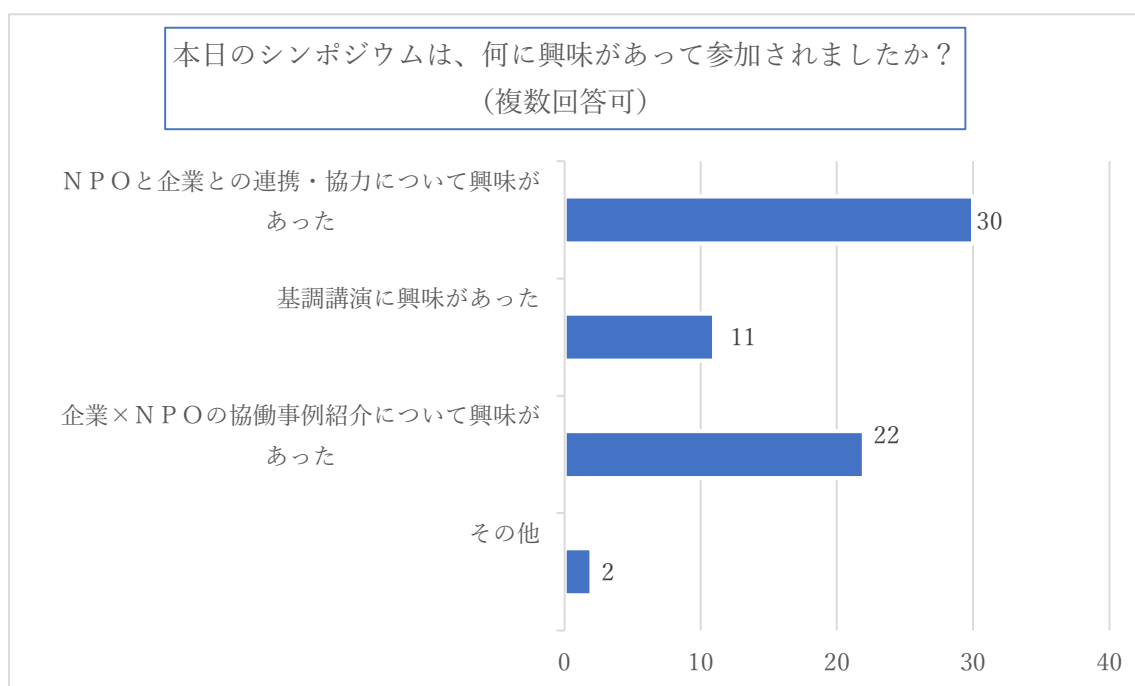
■ 回答者情報 (○を1つ付けてください)

1. 企業 18 名(40%)
 2. NPO 法人 20 名(44%)
 3. その他 7 名(16%)
- (個人、学生、行政 など)



■ 本日のシンポジウムは、何に興味があって参加されましたか？（複数回答可）

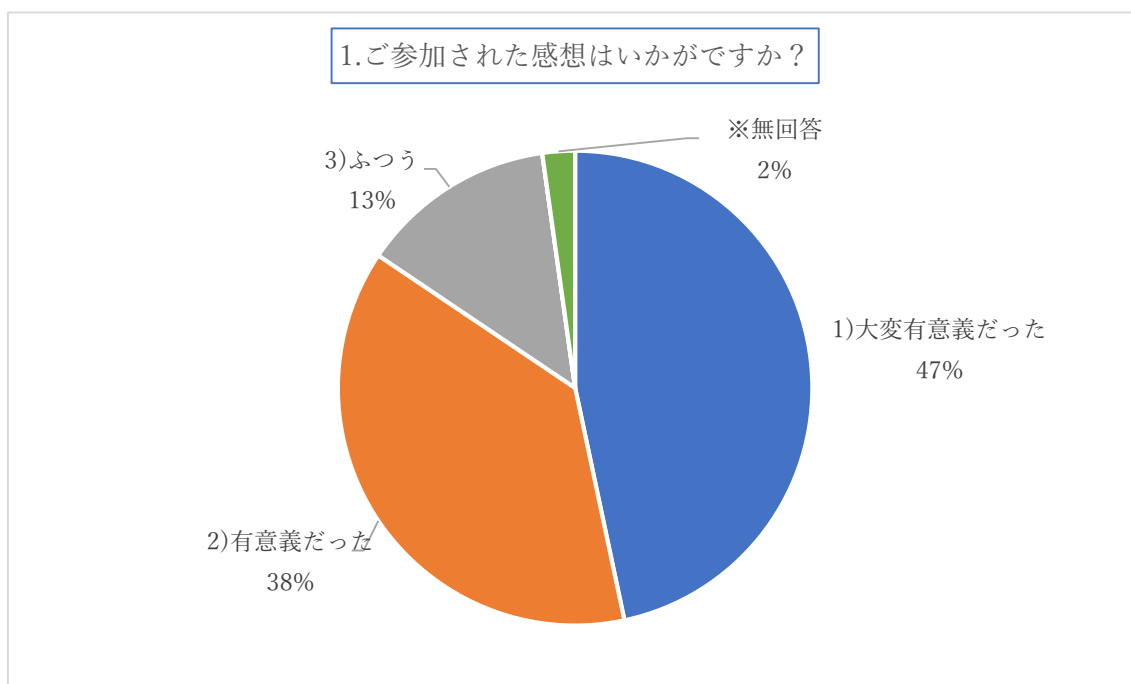
- | | |
|----------------------------|----|
| 1) NPOと企業との連携・協力について興味があった | 30 |
| 2) 基調講演に興味があった | 11 |
| 3) 企業×NPOの協働事例紹介について興味があった | 22 |
| 4) その他 | 2 |
- ・学生としてこのことに興味があった
 - ・インターンの活動の一つ



■ 「企業とNPOの協働推進シンポジウム in ふくしま」について

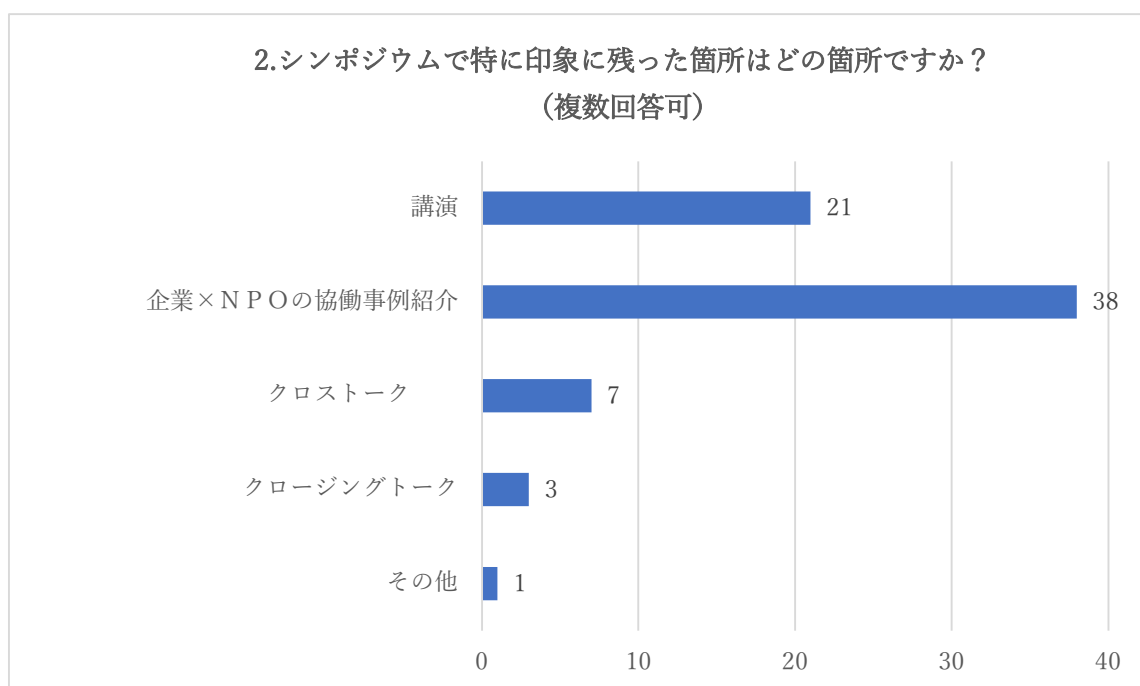
1. ご参加された感想はいかがですか？（○を1つ付けてください）

1) 大変有意義だった	21(47%)
2) 有意義だった	17(38%)
3) ふつう	6(13%)
4) あまり良くなかった	0
5) 良くなかった	0
※無回答	1(2%)



2. シンポジウムで特に印象に残った箇所はどの箇所ですか？（複数回答可）

1) 講演	21
2) 企業×NPOの協働事例紹介	38
3) クロストーク	7
4) クロージングトーク	3
5) その他	1



<回答欄>

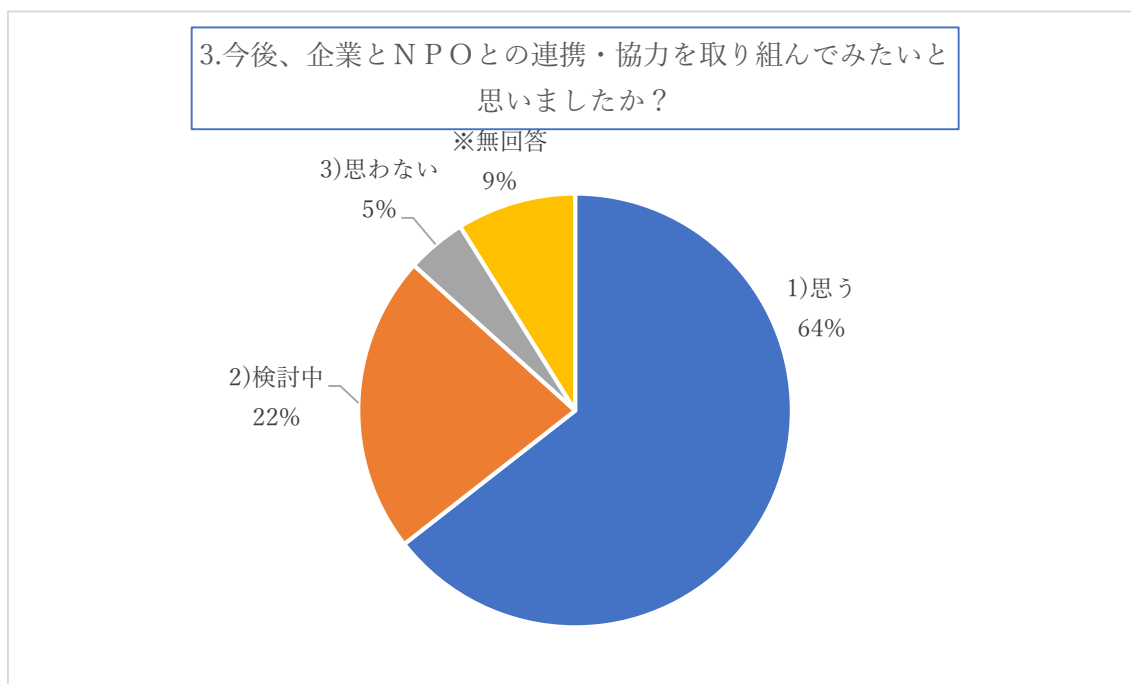
- 企業とNPOの繋がりが素晴らしく今後の活動に参考にさせていただきます。
- マッチングの幅は広がっている印象と受けております。今後異業種での企業と企業のマッチングそこに可能性がありそうです。
- 参考になりました。
- 福島銀行さんのビジネスマッチングが企業×企業だけに終らず、是非NPOとのマッチングも協働を推進してもらいたい。クロージングの多様性の考え方、市民活動の質そして共感の大切さについて学びました。
- 企業マッチングのきっかけを知ることができ勉強になった。

- NPOの方々の事業内容や目的について知ることができた。
- 「本当は何を狙っているのか」という企業に対する問いとそれに対する企業の回答。

3. 今後、企業とNPOとの連携・協力を取り組んでみたいと思いませんか？

(○を1つ付けてください)

1) 思う	29(64%)
2) 検討中	10(22%)
3) 思わない	2(5%)
※無回答	4(9%)



4. 本日のシンポジウムの感想やご意見をお書きください

- 大変勉強になりました。今後、何を出来るか考えます。(食品卸売業を行なっているので、子供食堂への協働が可能と思います)
- 資料がたくさんあったので、テーブルがあると助かります。
- 大企業、中小企業それぞれできることや思ってることあるので、より良い関係で社会を築けたらいいなと思います。

- 大手企業の事例も良かったが、中小企業が協働し、社会貢献を実感した事例なども聞きたい。
- さまざまな取組みが出来ることが認識し、有意義なシンポジウムだった。まずは小さなことから取り組んで貢献をしたい。
- 色々な活動と考え方があるということを学ぶことができ、感謝いたします。今後、一企業として何が出来るか？何をすべきか？を検討して行きたいと思います。
- 仕事をさせていただくことのお金の出口を改めて考える時間となりました。これから地域の問題解決に繋がるようにしていきたいと改めて感じました。
- 大変勉強になりました。ありがとうございます。
- 第一部の講演は「今後の可能性」を大命題として様々な可能性にスポットを当てて話をいただければ想いが広がったと感じました。
- 企業と NPO の連携に関して詳しく知ることができた。
- 質問したが対応いただけなかった残念でした。
- 大変学びの多い内容でした。ありがとうございました。
- 「鳴き砂」という言葉を初めて聞いた。過去からの贈り物という表現が素敵だと感じました。音が鳴るのも不思議でおもしろい。「鳴く」という表現もおもしろいと思った。最初は、なぜ鳴き砂が減っちゃいけないのだろう、何のために守るのだろうと思った。鳴き砂が減ることのデメリットが思い浮かばなかった。減ったせいで環境が悪くなるといったことはないと思ったからです。確かに環境保全の認識を高めるという意味では一つのきっかけとして鳴き砂の減少を知るということがあるのかと思った。
- 今回、NPO法人に所属している身として、NPO法人だけではできないことが企業や行政と協力することで、可能なことが増えることを理解することができました。非常に勉強になりました。ありがとうございました。
- よかった！！是非又。
- とても勉強になりました！またありましたら参加したいと思います！
- 企業と企業、企業とNPOとマッチングに苦勞することは少ないが、その後のサポート、活動の継続させる人材の育成が課題です。

- NPOの活動やニュースなど、現状をもっと知る方法があれば良いと思った。
- 今までは企業とNPO等の協働がスタンダードでしたが、今はみんなで社会課題の解決へと取り組む形の変化があることを知ることが出来たことは有意義でした。何となく肌感覚で感じていたが、やっぱりそうなのかと振り返ることが出来ました。
- 興味深い事例でとても勉強になりました。
- "シンポジウムの開催、ありがとうございました。オンラインで視聴させていただきました。実際に活動をしている方々の想いのこもったお話を伺い、改めてSDGsの大切さを実感しました。提案ですが、NPO法人や企業だけでなく、各市町村の担当者（子育て支援や環境など）にもご参加いただけると、より具体的な議論（必要とされている支援）ができるのではないかと思います。
- これからの地域社会への貢献のカタチについて知ることができた。協働事例も興味深かった。
- 半田さんの話にグッと来ました。
- 各協働事例紹介の内容をもっと深く知りたかった。
- "とても有意義なシンポジウムを企画いただき、ありがとうございました。
- 企業とNPOとの協働において、子ども食堂のように企業の場所を提供することなど、多くの協働が増えています。一方で、企業においてはコンプライアンスや利益相反が厳しくなり、NPOについても同様なことが今後取り組む必要が出てきて、最悪の場合、取り組んでから発覚するようなことも考えられます。それを事前に見える化していくチェックリストやネガティブリストなど、簡易なものなどがあればいいと思いました。また、行政がやる部分をNPOが肩代わりにならないような仕組みや考え方のチェックリストについてもあれば、企業が自信をもって協働ができる基盤ができていくのではないかと思います。
- 企業との連携をコーディネートしてほしい。
- 講演が良かった。NPOと企業が連携する際の、民間感覚でつながれるという視点が学びになった。
- YouTube 配信ありがたいです。
- NPOと連携すること＝見返りを求めるものではないと思っていましたが、企業は

きちんとその先に自社の発展に繋がる狙いを持っていると知れて少し安心しました。今回のシンポジウムに参加したことで、協働に関する視野を広げることができました。

- 事例発表は良かった
- 改めて企業と NPO が互いの強みを活かしながら協力することで、社会課題の解決につながることを実感しました。登壇者の事例紹介やクロストークを通じて、多様な視点から協働のあり方を学ぶことができ、大変参考になりました。それぞれ程よい距離感の良い関係性が築かれており、とても良いなと感じました。今後の活動に活かしていきたいと思います。ありがとうございました。
- 今後は、企業と NPO の協働が進み、行政に頼らずして民間で課題解決ができる福島になることを期待したい。
- 貴重な機会をありがとうございました。以下 3 点感想です。
 - 事例をもう少し絞ってディスカッションの時間を確保し、事例発表者の双方向性も生まれるような展開にされた方がよかったかもしれません。前段の、田尻さんの基調講演におけるキーワードと紐づけて田尻さんに投げかけていく時間もあつたらより学びが増幅しそうに映っておりました。
 - オンラインシステム内に寄せられるコメントは公平に扱った方がよいでしょう。
 - 会場がとってもフォーマルな設えだったようで、今後はコワーキングスペースなどのゆるやかな空間で開催すると、また新たな客層の獲得や雰囲気づくりにも大きな助けになると感じました。

(5) マッチング事業の広報・募集・申込受付・成果普及（随時）

イ) マッチング事業の広報

➤ 事業全般の広報

- HPでの広報 2024 年 4 月 19 日実施
令和 6 年度事業開始のお知らせ
- 福島商工会議 所報ふくしまへの掲載
- 企業、NPO等へのヒヤリングでの周知など

➤ シンポジウムの広報活動実績

- サポートセンターHP での告知
- サポートセンターFacebook
- サポートセンターX
- 福島市商工会議所 所報
- 福島法人会からのお知らせ
- NPO法人メーリングリスト
- ふくしま SDG s 推進プラットフォーム メーリングリスト
- 郵送実績
NPO 団体（840 団体）
企業（109 社）
市町村（58 ヶ所）
中間支援センター（10 ヶ所）
- 各メディア掲載についての依頼
福島民報
福島民友
NHK福島放送局
テレビユー福島

シンポジウムチラシ

企業とNPOの協働推進シンポジウム in ふくしま
～企業とNPO ひろがる協働のみらい～

福島県では、NPOと企業等の多様な協働が、互いの立場を尊重し、それぞれの強みや特長を活かして協働することにより、人口減少社会における地域コミュニティの再生や多様な社会課題の解決につなげていくことを目指しています。
本シンポジウムでは、企業とNPOとの協働事例を通して、企業とNPOとの今後の連携・協力の可能性を広げ、ふくしまの未来を考えます。

日時 2025年2月27日(木) 13:30～16:30 (開場: 13:00)
会場 杉妻会館 4階牡丹 (福島県福島市杉妻町3-45) **参加費** 無料
定員 100名(会場) ※オンライン同時配信
対象 企業、NPO、学生、協働に関心がある方

YouTube Live
当日は会場の様子をオンラインで配信します
事前申し込みが必要です

第1部 講演「企業とNPOとの連携事例から今後の可能性を探る」
海外でのボランティアを経て大塚ゼンティア協会に入職、企業の社会貢献活動の推進に携わる、2009年に日本NPOセンターに出席、2018年より福岡、市民活動の基盤整備をベースに、NPOと他セクター(特に企業)との連携のためのコーディネーションに携わる。
田尻 佳史氏
特定非営利活動法人 日本NPOセンター 常務理事

第2部 企業・NPOの協働事例紹介
事例1: 企業ショールームを活用した子ども食堂活動
福島ガス株式会社 × NPO法人ビーズふくしま
事例2: 二本松の紙漉を使った大人向けジェラート開発
有限会社九太大塚商店 × NPO法人はなみずき(すてっぴ) × 株式会社福島銀行
事例3: 社員寮を活用したお支払いきき書庫・コミュニティフリッシュひまわり
株式会社いちいち × NPO法人チームふくしま
事例4: いわきの海岸清掃と焼き砂の定着巡回活動
福島県内田タタ販売店 × NPO法人いわき焼き砂を守る会
交流会＆名刺交換会

申し込み期間: 2025年2月23日(金)
申し込み先: ふくしま地域活動団体サポートセンター
〒960-8543 福島県福島市平均2号 福島県社会福祉会館7階
TEL 024-523-7333 FAX 024-523-2741
※申し込み要領と申し込み用紙は、NPO、企業との協働推進課まで

企業とNPOの協働推進シンポジウム in ふくしま
参加申込書

会社名・団体名			
ご住所 電話番号 FAX番号	〒		
	TEL:		
	FAX:		
参加者	役職名	参加者氏名	参加方法 (いずれかに○)
			会場
	E-mail:		オンライン
	E-mail:		会場 オンライン

【企業とNPOの協働推進シンポジウム in ふくしま】を例でお知らせになりましたが、※2つに○をお付けください

1. 新聞 2. チラシ 3. 東工芸館内製 4. ふくしま地域活動団体サポートセンターHP
5. SNS(Facebook, X) 6. ふくしまSDGs推進プラットフォームメールマガジン 7. その他()

【その他、ご質問等ございましたらご質問にご記入ください。】

■申込締切: 2025年2月21日(金)
※会場の収容人数の都合により、変更になりお断りさせていただきます。

■申込方法
【2次元コード】 2次元コードからお申し込みください。
【FAX】 本参加申込書にご記入の上、FAXにてお送りください。
【メール】 団体名・参加者・電話番号・参加方法を明記の上、メールにてお申し込みください。
メールアドレス: f-matching@f-saposen.jp

■お問合せ先: ふくしま地域活動団体サポートセンター 福島県内山、伊藤、斎藤(国庫)
TEL 024(523)-7333

<チラシ表面>

<チラシ裏面>

ロ) マッチング事業の募集・申込受付

➤ マッチング事業の募集

NPO法人へのニーズ調査(アンケート形式) 2024年9月13日実施

有効回答数: 28件 ※回答率 6.1%

※手法 メールリテリングリストでのメール調査(459団体)

➤ マッチング事業の申込受付

上記ニーズ調査において、マッチングコーディネートを希望した団体: 9団体

※上記の内、マッチング要望シートの提出のあった団体: 3団体

ハ) マッチング事業の成果普及

- ふくしま地域活動団体サポートセンター ニュースレター「ひろがる協働のみらい」欄にて県内の協働事例の紹介

- Vol.1 NPOと株式会社いちいとの取り組み紹介
 - Vol.2
 - ① NPO主催イベントへの連携・協力
 - ② 環境保護イベントの連携・協力
 - ③ 会津地域で農福連携
 - ④ 二本松の銘酒を使った大人向けジェラート開発
- 協働事例集「ひろがる協働のみらい」の作成
- NPOと企業等との連携・協力事業 事例集

4. マッチング事業の成果

(1) NPOと企業等へのマッチングに向けた情報提供、ヒヤリング

(ア)	NPOへの情報提供、ヒヤリング実績	20 件
(イ)	企業への情報提供、ヒヤリング実績	26 件
(ウ)	NPOと企業等との協働セミナー等への参加	4 件
(エ)	社会貢献活動に関するアンケート調査（対象：企業等）	
※調査数：10 社 回答数：4 社（回答率：40%）		

(2) NPOと企業等の協働に関するアンケート調査(対象：NPO 法人)

調査対象	459 団体
有効回答数	27 団体
回収率	約 5.9%

(3) マッチング伴走支援（協働案の取りまとめ等）

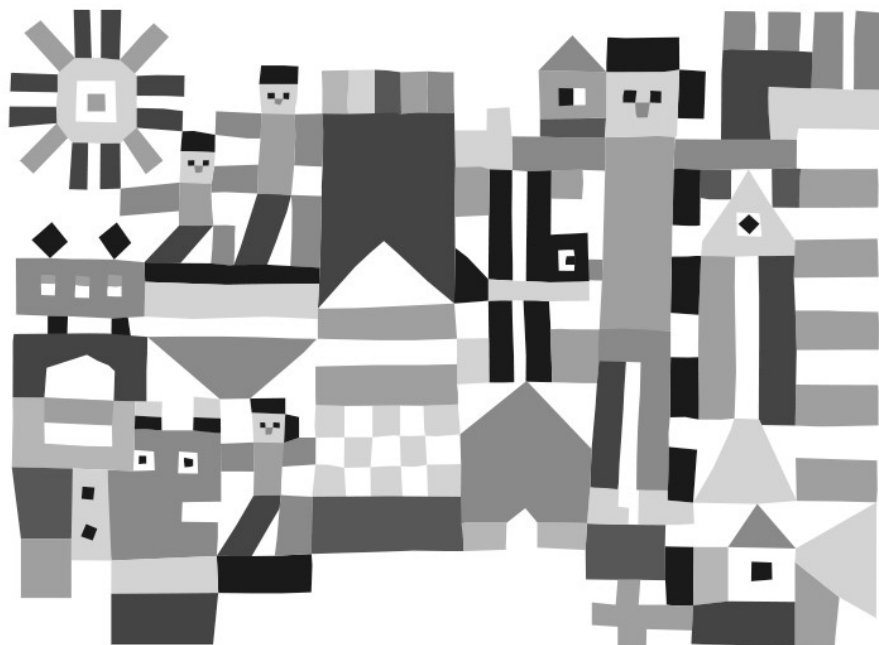
➤ マッチング要望シートの提出があった団体	3 件 ※1 件はキャンセル
➤ マッチング要望シート提出以外	6 件

(4) 企業とNPOの協働推進シンポジウム in ふくしま 開催

開催日程	令和 7 年 2 月 27 日(木) 13:30～16:30
開催場所	杉妻会館 4 階牡丹
参加実績	参加者数：76 名（当日参加 11 名含む）

(5) マッチング事業の成果普及

- ふくしま地域活動団体サポートセンター ニュースレター「ひろがる協働のみらい」欄にて県内の協働事例の紹介
- 協働事例集「ひろがる協働のみらい」の作成



令和6年度 ふるさと・きずな維持・再生支援事業事務業務
NPO、企業等との連携・協力事業
(マッチング事業)

令和7年3月 発行

ふくしま地域活動団体サポートセンター

〒960-8043 福島県福島市中町8番2号 福島県自治会館7階

TEL 024-521-7333 FAX 024-523-2741

URL <https://fnpo-matching.f-saposen.jp/>

事業委託：福島県企画調整部文化スポーツ局文化振興課

事業受託：認定特定非営利活動法人ふくしまNPOネットワークセンター
